

おかやま環境レポート 2004



平成16年版
岡山県環境白書(概要版)

岡山県環境基本計画・エコビジョン2010

未来を見つめた県民参加のエコプロジェクト、現在進行中。

岡山の豊かな自然と歴史的な地理風土は、県民みんなの大切な財産です。きれいな空気や水環境、豊かで身近な自然、美しい景観など、「晴れの国」にふさわしい健全な環境を守り、未来へ継承していくために、岡山県では、「岡山県環境基本計画・エコビジョン2010」を推進。2010年度（平成22年度）までの具体的な目標を定め、行政・事業者・県民それぞれが主体となった取組を進めています。

理 念

健全で恵み豊かな環境の恵沢を享受し、将来の世代へ継承

持続的な発展が可能な社会の構築

環境への負荷の低減

人と自然との共生の確保

地球環境保全の積極的な推進

社会のあらゆる構成員の参加

基本目標と施策

基本目標ごとに環境の現状と課題を整理し、計画目標を定め、県民・事業者の参加のもとに行政が行う主要施策を明らかにするとともに、重点的に取り組むプロジェクトを示しています。

協働による環境保全

- 環境パートナーシップ構築プロジェクト
- 環境教育・環境学習推進プロジェクト

P2

1 空気をきれいに保ちます

- 自動車公害対策プロジェクト
- 有害化学物質削減プロジェクト

P3

2 水をきれいに保ちます

- 水環境保全プロジェクト

P5

3 静けさと快適な環境を保ちます

- 快適生活空間創造プロジェクト

P7

4 循環型社会を構築します

- ごみゼロ社会プロジェクト

P9

5 豊かな自然を保ち、自然とのふれあいを確保します

- 自然との共生プロジェクト

P11

6 地球環境を守ります

- 地球温暖化防止プロジェクト

P13

それぞれの施策をスムーズに進めるために、共通する基盤的な施策を進めています。

条例等の見直し、充実

環境影響評価の推進

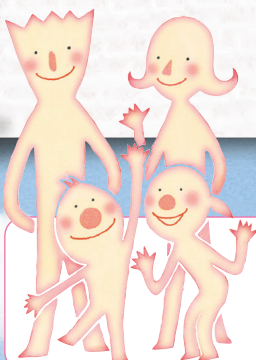
環境保全のための費用負担意識の普及等

県の事業者・消費者としての率先行動

環境情報の収集、公開、公表

調査研究の推進

岡山県では、率先して環境配慮へ取り組むため、ISO14001規格に基づく岡山県環境マネジメントシステムを導入しています。この環境マネジメントシステムの運用により、エコビジョン2010の効果的・効率的な推進を図っています。



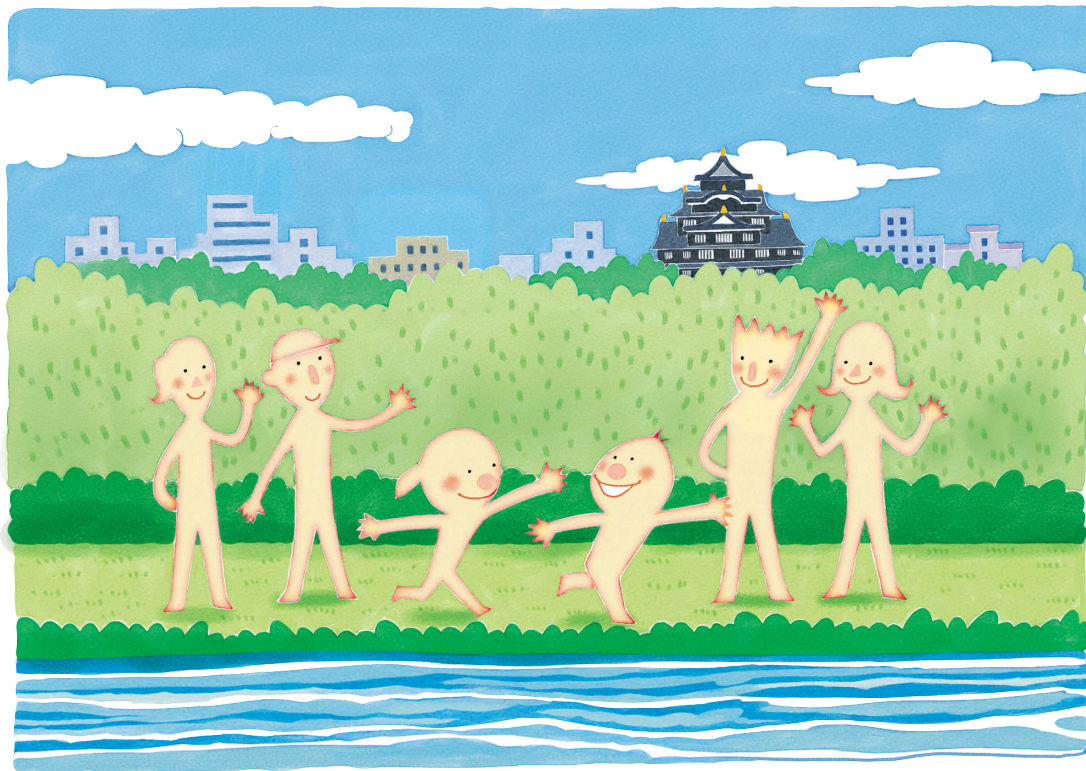
私たちは、岡山に住んでいる「ピーチファミリー」です。クリーンで快適な環境が大好き。これから、岡山の環境保全への取組を私たちが紹介していきます。どうぞ、じっくりとご覧ください。そして、いっしょに行動しましょう。

環境問題は、私たちの日常生活や事業活動と深く結びついています。

環境保全を進めるためには、県民の皆さんや事業者、NPO、行政などによる「協働」が欠かせません。

岡山県としても、協働による環境活動を促進する仕組みづくりを進め、

また参加する人・団体の支援に取り組んでいます。



私たちの岡山の環境は、
県民195万人全員の
アクションで守ろう。

環境パートナーシップ 構築プロジェクト

地域ぐるみで、街や川・海を
クリーンアップ。

協働による美しい環境の創出と環境保全意識の
高揚を目指して、住民グループ等と県、市町村と
の連携による道路、河川、児島湖、海岸の環境美
化活動（アダプト事業）を推進しています。

県民
参加



環境教育・環境学習 推進プロジェクト

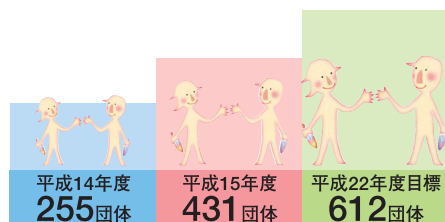
みんなの心に、環境への
思いやりが育っています。

県民一人ひとりが地域の環境について知り、環境
保全に取り組む意識を高めるため、環境学習リー
ダー等の人材育成や、子どもたちの自主的な環境
活動である「こどもエコクラブ」の活動を支援して
います。

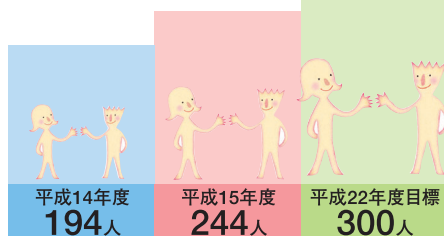
県民
参加



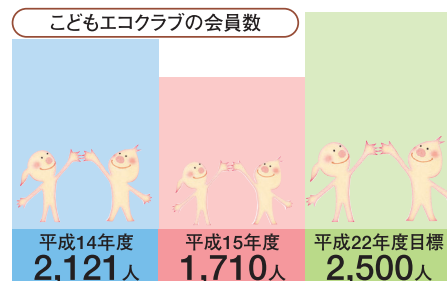
アダプト実施団体数



環境学習リーダー数



こどもエコクラブの会員数



大気汚染の原因として、近年は自動車交通量の増加による排出ガスが大きな割合を占めています。
また産業分野においても、多様な化学物質が使用されるにつれ、
これらによる新たな環境汚染が懸念されています。

そこで県では、「自動車公害対策」と「有害化学物質の削減」を重点プロジェクトに設定。

具体的な取組を進めています。



県民参加

自動車公害対策プロジェクト

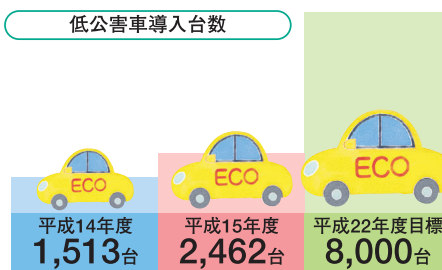
街で見かけはじめた
エコカー。
いずれは当たり前の
光景に。

大気汚染物質を排出しない電気自動車や、
窒素酸化物等の排出量の少ないハイブリッド自動車、天然ガス自動車等低公害車の普及・
導入を図っています。



低公害車キャラバン隊による普及啓発活動

低公害車導入台数



晴れの国から
自動車の排出ガスと
有害化学物質を減らそう。



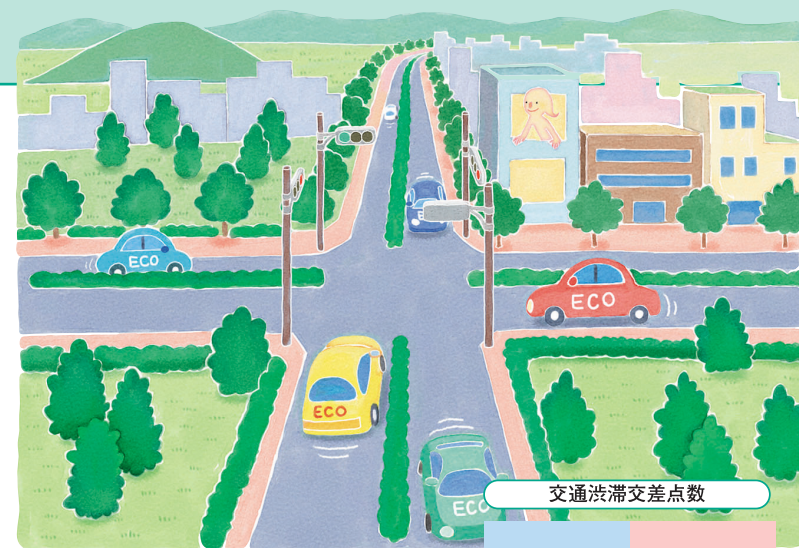
県民参加

交通渋滞交差点数を減らし、
渋滞を緩和。停車中の
排出ガス量を削減しています。

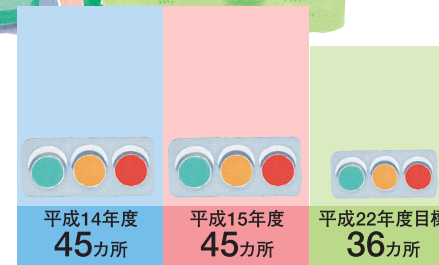
交通渋滞情報や駐車場情報提供装置を充実させ、
交通を平滑化。渋滞を緩和することで、排出ガスの
削減を目指しています。

環境にやさしい運転を、
会社をあげて取り組もう。

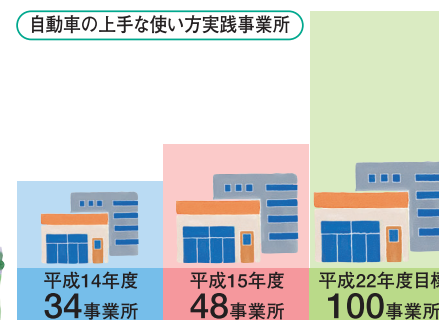
アイドリング・ストップの実践や経済速度での走行など、
環境に配慮した運転マナーの推進に取り組む事業所の増加を目指しています。



交通渋滞交差点数



自動車の上手な使い方実践事業所



有害化学物質削減プロジェクト

調査地点と検査項目を増やし、
監視の目をさらに厳しく。

大気環境中の有害化学物質の濃度について、モニタリングを充実。環境
への負荷が著しいと認められる地域について、当該地域を指定して排出抑
制の措置を講じます。また工場・事業場からの有害化学物質の排出量など
を把握。工場・事業場に対して化学物質管理指針の周知徹底を図り、事業
者による自主的な管理を促進しています。

大気環境を守る対策の流れ

- 主要施策
 - 自動車からの大気汚染物質の排出の削減
 - 工場・事業場からの大気汚染物質の排出の削減
 - 大気汚染防止夏期対策の実施
 - 有害化学物質による環境汚染の未然防止
 - 悪臭被害の防止
 - 大気環境状況の的確な監視

●重点プロジェクト
自動車公害対策プロジェクト

- 総合対策
 - 自動車に起因する大気汚染対策を推進するため、「岡山県環境への負荷の低減に関する条例」に定める事業者及び県民の取り組みを含めた総合的施策の強化
- 発生源対策
 - 自動車排出ガスの最新規制適合車への代替を促進
 - ディーゼル自動車に係る粒子状物質削減対策を実施
- 交通需要マネジメント施策
 - 低公害車の普及・導入
 - アイドリング・ストップ運動等の推進
- 「岡山県環境への負荷の低減に関する条例」では、貨物の積卸しや運転者が車を離れている場合等の駐車時にはエンジンを止めることを求めています。（義務違反者に対し5万円以下の過料）

有害化学物質削減プロジェクト

- 環境への排出量などの把握
- 環境への排出量などの集計・公表
- 自主的な管理の促進
- 排出抑制
- 環境モニタリングの充実

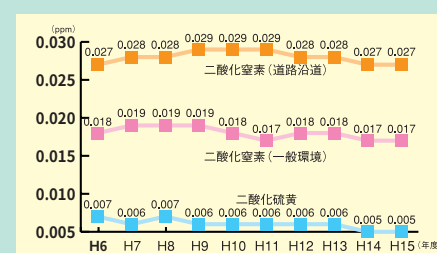
大気環境の現状と課題

重点課題である自動車排出ガスなどによる大気汚染状況を監視するために、県内72カ所に測定局を設置。環境基準への適合や排出量の推移を監視しています。このうち光化学オキシダントは、岡山だけではなく、全国でも99.7%の測定局が非達成となっている広域的な問題です。

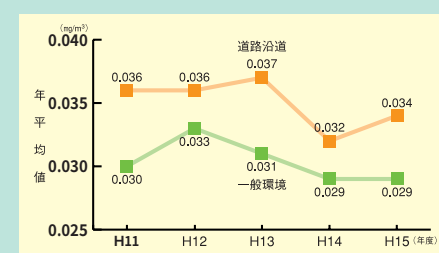
●環境基準達成状況等

計画目標	測定汚染物質と環境基準値	15年度達成状況	今後の対策
環境基準への適合	二酸化硫黄（1日平均値0.04ppm以下）	全測定局（55）で達成	○国と協力し広域的な発生構造を解明 ○工場等の監視・指導の充実 ○夏期の対策強化
	二酸化窒素（1日平均値0.06ppm以下）	57/58測定局で達成	
	一酸化炭素（1日平均値10ppm以下）	全測定局（8）で達成	
	光化学オキシダント（1時間値0.06ppm以下）	全測定局（40）で非達成	
	浮遊粒子状物質（1日平均値0.10mg/m ³ 以下）	60/61測定局で達成	
	ダイオキシン類	全測定地点（14）で達成	
	ベンゼン等（4物質）	ベンゼンのみ2測定地点で非達成	
汚染物質の排出量削減	窒素酸化物（自動車からの排出）	減少傾向（平成6年度より4.4%減少） ＜H11年度調査結果＞	○工場等発生源の監視や自動車公害対策プロジェクト等を引き続き推進
	硫黄酸化物・窒素酸化物（工場等からの排出）	横ばい傾向	

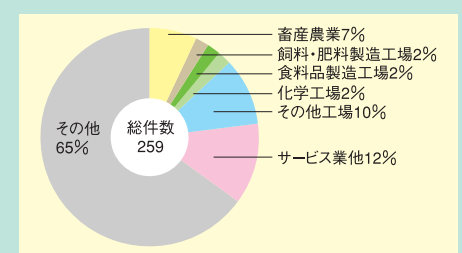
大気に排出される汚染物質は、概ね環境基準値をクリア。数々の対策が効果を上げてきています。



●二酸化硫黄・二酸化窒素平均濃度の推移
二酸化硫黄は環境基準が達成維持されています。二酸化窒素は、交通量の多い幹線道路沿道の1測定局で環境基準を達成していません。自動車からの窒素酸化物排出量の削減が課題です。



●浮遊粒子状物質の平均濃度の推移
浮遊粒子状物質の濃度はやや減少しています。環境基準を達成維持するためには工場やディーゼル自動車などからの原因物質の排出量の削減が課題です。



●平成15年度悪臭苦情件数
悪臭に関する苦情件数は、近年減少していますが、公害苦情件数全体の約11%を占めています。規制地域指定の拡大や事業所への指導の徹底を行っています。

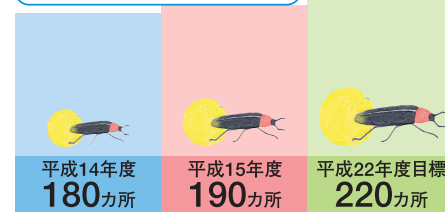


水環境保全プロジェクト

生活排水の浄化を徹底的に推進。 川辺には、ホタルも戻り始めています。

生き物の棲みやすい「清流」を増やし、自然とのふれあいを楽しめる水環境を守っていくために、合併処理浄化槽などの污水处理施設の設置を推進。生活排水をクリーンな状態にして自然の川に返しています。

ホタルの生息地箇所数



合併処理浄化槽の設置基数



吉井川・旭川・高梁川の三大河川や

美しい瀬戸内海を持つ岡山。

その豊かな水資源は、

私たちの暮らしに欠かせないものです。

しかし都市化や生活様式の変化とともに、生活排水などによる水質汚濁が大きな課題に。

県としても、水質の浄化や、

水中・水辺の生き物を守り増やすための

取組を急ピッチで進めています。

郷土の清流や海の
環境を保全し、
生き物たちを守る。

県民参加



魚の群れ泳ぐ姿があちこちに見られる、そんな瀬戸内海に。

藻場・干潟等の保全・再生を進め、メバルをはじめ瀬戸内海の魚類等の生息環境を高めています。

メバル生息適地（藻場）の造成



水環境を守る対策の流れ

- 主要施策
 - 生活排水対策の推進
 - 工場・事業場対策の推進
 - 瀬戸内海の水質保全対策の推進
 - 児島湖の水質改善対策の推進
 - ダム湖の環境保全対策の推進
 - 有害化学物質による環境汚染の未然防止
 - 地下水の保全対策や土壌汚染等の防止対策の推進
 - 自然浄化能力の向上対策の推進
 - 水質環境状況の適切な監視

重点プロジェクト 水環境保全プロジェクト

- <清流保全>
 - 岡山県清流保全総合指針の普及啓発
 - 森林、農地等の保全
 - 生活排水対策の推進
 - 河川等の自然浄化機能の維持向上
 - 水辺の生態系の保全
 - 清流保全意識の高揚と清流保全活動の促進
 - 上下流域の交流
 - 出会いとふれあいの水辺づくり
- <瀬戸内海・湖沼水質保全>
 - 【瀬戸内海】
 - 自然景観の保全
 - 藻場及び干潟等の保全
 - 自然海岸の保全等
 - 埋立てに当たっての環境保全に関する配慮
 - 【児島湖】
 - 児島湖に係る水質保全計画の推進
 - 児島湖水辺環境整備基本計画の推進
 - 【ダム湖】
 - ダム湖周辺地域での排水対策
 - ダム湖の水質浄化対策
 - 水辺の生態系の保全
- <有害化学物質の削減>
 - 環境への排出量などの把握
 - 環境への排出量などの集計・公表
 - 自主的な管理の促進
 - 土壌及び地下水の汚染防止
 - 環境モニタリングの充実

児島湖再生にむけ、 多方面からの対策を全力で進行中。

流域の公共下水道や合併処理浄化槽などの整備を進めるとともに、湖畔のアダプト活動の推進など、各種の浄化対策を全力をあげて実施し、児島湖の水質保全を図っています。

児島湖のCOD水質目標



児島湖浄化センターの下水処理量



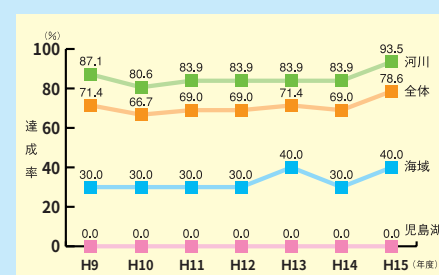
水環境の現状と課題

県内各地に観測点を設置し、実施している河川・湖沼・海域の水質等調査では、環境基準非達成の地点も見られるものの、BOD、CODの達成率では近年と同様の状態をキープ。水質の浄化を進めていくためには、特に問題になっている生活排水の対策（公共下水道や合併処理浄化槽などの普及）を緊急に推進しなければなりません。

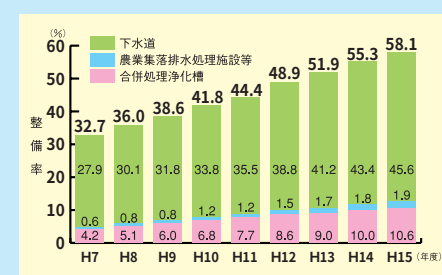
●環境基準達成状況等

計画目標	測定項目	15年度達成状況	今後の対策
環境基準への適合	BOD（河川）	29/31水域で達成	○各種計画に基づき、総合的・計画的に保全対策を実施
	COD（海域）	4/10海域で達成	
	COD（湖沼）	児島湖は非達成（9.1mg/l）	
	窒素・リン（海域）	7/8海域で達成	
	窒素・リン（湖沼）	児島湖は非達成（各1.3mg/l・0.19mg/l）	
	健康項目（26物質）	公共用水域全地点（119）で達成	○引き続き調査・測定を実施
	要監視項目（22物質）	公共用水域全地点（27）で達成	
	ダイオキシン類	水質・底質全地点（125）で達成	
	土壌	ダイオキシン類 全地点（60）で達成	
	地下水	健康および要監視項目（48物質） 1/55地点で非達成（原因：畑の施肥の影響と推定）	

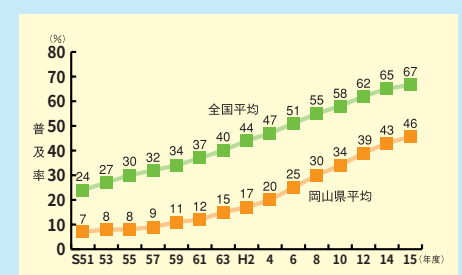
ホタル・メバルの生息地の増加が示すように、数々の対策が効果を発揮。今後も水質浄化の取組を進めます。



●県内公共用水域の環境基準の達成率（BOD・COD）
水の汚れを判断する代表的な指標、BOD（生物化学的酸素要求量）やCOD（化学的酸素要求量）の環境基準達成率は、近年とほぼ同じ傾向をキープしています。



●県内下水処理施設の整備率
人口あたりの生活排水処理施設の整備率は、平成13年度に50％を突破し、15年度にはさらに増加。水環境の維持向上を目指して、今後もさらに普及拡大に努めます。



●岡山県および全国の下水道普及率の推移
公共下水道の普及も、確実に進行中。生活排水等を効率的に処理し、環境への負荷を低減していくために、さらなる普及を目指して、取組を進めています。

自動車をはじめとする交通手段の発達により、

道路や鉄道、空港周辺で発生する騒音・振動への対策が求められています。

また同時に、「景観」への意識が高まるなか、町並みの計画的な整備や落書き、

屋外照明による光害等への対策も課題となっています。

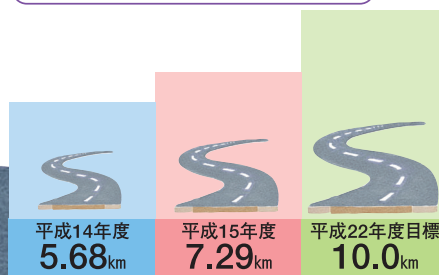
県では「快適生活空間創造」を重点プロジェクトとし、諸問題の総合的な解決を目指しています。

快適生活空間創造 プロジェクト

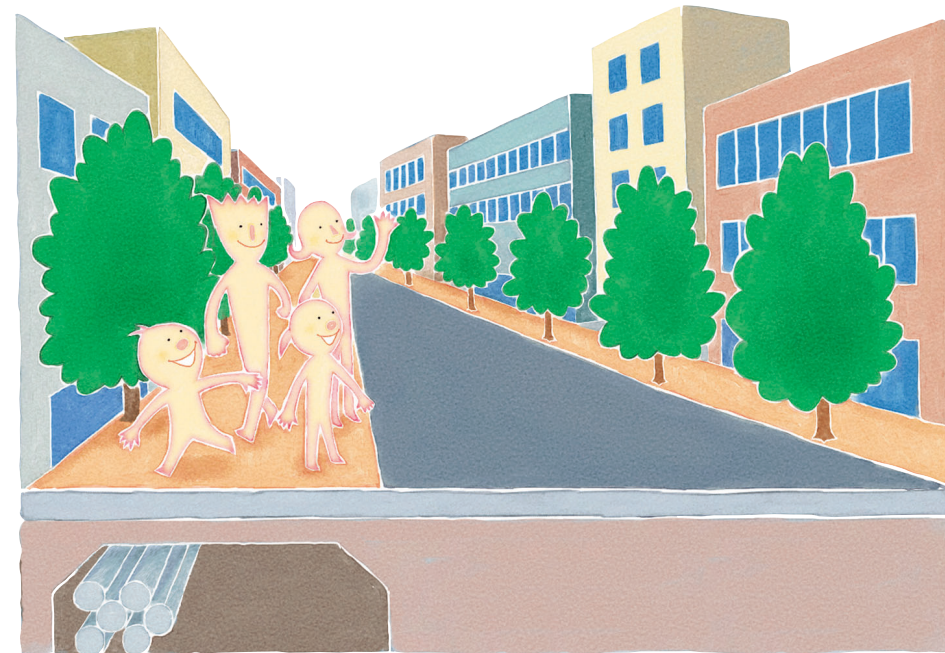
騒音の出にくい、新しい舗装の道路が増加中。
自動車による騒音の低減に効果を上げています。

自動車社会の発展は、私たちの生活を便利にした反面、交通量の増加にともなう騒音が問題になっています。その対策として県では、騒音の出にくい舗装の道路を着々と導入。騒音問題の解決に、効果を発揮しています。

低騒音舗装道路延長（2車線換算延長）



騒音問題や落書きをなくして、快適な生活環境を守ろう。



快適な生活環境の 創造にむけて



●条例の普及啓発活動

条例の普及啓発活動を積極的に進め、県民の皆さんへ理解と遵守を呼びかけています。

●放置自動車等の撤去

県が管理する土地に放置された自動車等の撤去を進めています。

●光害対策の推進

光害対策を進めるため、市町村が行う屋外照明施設の設置・改修に対し支援を行っています。

「岡山県快適な環境の確保に関する条例」

落書き、ポイ捨て、自動車等の放置、光害に対し、罰則を含む防止措置を定めた条例に基づき、さまざまな取り組みを実践。きれいで快適な生活環境の創造を推進しています。



●落書き防止・消去活動
地域ボランティア「落書き防止活動推進員」を設置するとともに、ボランティア団体等が行う消去活動を支援しています。



（発光ダイオードを使用した風力・太陽光発電街路灯 中央町）

電柱や電線のない、美しい町並みが誕生しています。

美しい都市景観を創出するために、上空を占有し美観をそこねる電線類の地中化を推進。電柱や電線のないきれいな町並みも徐々に増えています。

電線の地中化された道路延長



静けさ・快適環境を守る対策の流れ

- 主要施策
 - 道路交通騒音・振動の防止
 - 新幹線鉄道騒音・振動の防止
 - 航空機騒音の防止
 - 工場・事業場騒音・振動の規制
 - 美しく快適で安心な都市景観・まちづくりの推進
 - 落書きの消去・防止活動の推進
 - 空き缶等の投棄防止
 - 自動車等の放置防止
 - 光害の防止

●重点プロジェクト 快適生活空間創造プロジェクト

- <騒音・振動の削減>
 - 自動車等の対策
- <快適生活空間の創造>
 - 快適で安心な都市景観・まちづくりの推進
県民参加のワークショップを開催し、地域にふさわしい都市景観を提案。
 - 電線類の地中化の推進
電線類の地中化を推進し、美しく快適な都市景観を創出。
 - 落書き消去活動の支援
民間非営利団体の消去活動の支援。
 - 光害防止の推進
率先的に光害対策に取り組む市町村の照明設備の新設・改修を支援。

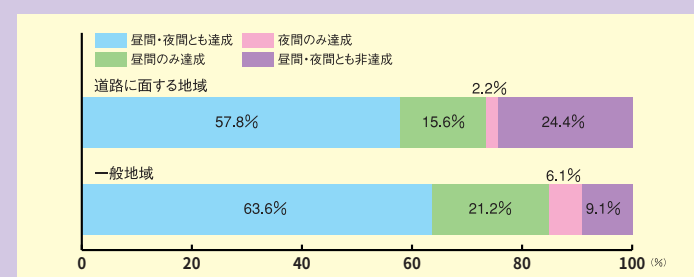
静けさ・快適環境の現状と課題

県内各地の道路・新幹線鉄道・空港周辺の騒音・振動測定では、振動については全地点で要請限度と指針を達成したものの、騒音は特に道路に面する地点で非達成の地域も。こうした自動車による騒音の低減と、町並み・景観の美化対策を進めていくことで、「快適生活空間」が実現していきます。

●騒音・振動の環境基準達成状況等と、まちづくりへの取組

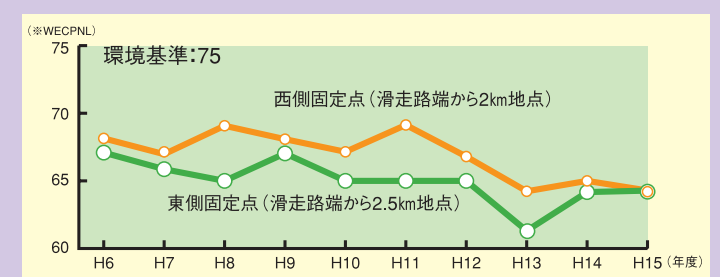
計画目標	測定項目	15年度達成状況	今後の対策
騒音の環境基準への適合	一般騒音	一般地域21/33地点、道路に面する地域26/45地点で達成	○法律に基づき監視○道路構造や交通流対策を総合的に実施
	新幹線鉄道騒音	1/9地点で達成	○事業者へ対策要請
	航空機騒音	全2地点で達成	○定期的な監視を継続
振動の要請限度と指針への適合	道路交通振動	全11地点で達成	○必要な監視を継続
	新幹線鉄道振動	全9地点で達成	
美しく快適で安全な都市景観・まちづくり		9路線で電線類地中化事業を実施（県管理道）	○無電柱化推進事業の推進
快適な生活環境の保全・創造		○条例の普及啓発活動を実施 ○落書き防止活動推進員の活動を推進 ○ボランティア団体等の落書き消去活動を支援 ○市町村の屋外照明施設の設置・改修を支援 ○県管理地の放置自動車撤去	○落書き防止・消去活動を、推進員と連携し、県民・行政の協力で促進 ○県管理施設への落書き、放置自動車、光害等の防止対策を率先して実施

「振動」は要請限度・指針に適合。自動車騒音と、景観の美化についても、各種対策が進行中。



●平成15年度 騒音の環境基準達成状況

騒音に関する苦情件数は近年減少しているものの、特に道路に面した地域の騒音は、依然として大きな課題。低騒音舗装など、道路構造の改善や交通流対策を進めています。



●航空機騒音に関する環境基準の達成状況（岡山空港）

岡山空港周辺の航空機による騒音は、近年、環境基準を5から10WECPNL以上下回る水準をキープしています。※WECPNL：（航空機騒音の）うるささ指数。1機ごとの騒音レベルに、時間帯別の飛行回数を加味して算出します。

経済性や効率、利便性を優先した大量生産・大量消費の社会は、
限りある資源を浪費し、廃棄物による自然への負荷も深刻化しています。
その対策として岡山県では、「ごみゼロ社会」の実現を重点プロジェクトに定め、
ごみの削減やリサイクル利用を積極的に推進。
県民参加によるごみ減量化対策は、すでにその効果を現し始めています。



県民参加

ごみゼロ社会
プロジェクト

ごみゼロ・再利用の輪を
県民・事業者の間に広がっていきます。

県民の皆さんの理解と協力を得ながら、ごみの減量・リサイクルを推進。ごみの7種分別を、近い将来には全市町村へ導入します。また県では、産業廃棄物の種類ごとに排出抑制策等を定めた「ごみゼロガイドライン」も策定中。平成14年度の「汚泥」、15年度の「鉱さい」に続き、順次4種類まで拡大します。

ごみゼロガイドラインの策定



7種分別実施市町村数



(計画策定時)

ごみ削減の工夫と
リサイクルで
ごみゼロ社会を目指す。

環境にやさしい
企業の認定を始めました。

再生品の販売や使用等により循環型社会の構築に積極的に取り組んでいる事業所を認定する制度を創設しました。



県民参加

岡山県認定のリサイクル製品も、
続々と登場。

県内で製造されているリサイクル製品であって、県が定める認定基準を満たした製品を「岡山県エコ製品」として認定する制度を創設。平成15年度までに386もの製品が誕生しました。

岡山県エコ製品の認定(品目数)



県民参加

使いたい、使ってほしい
再生品の種類・基準を決定。

使用を進めたい再生品の種類や、その再生資源配合率等の基準として「岡山県再生品の使用促進に関する指針」を策定。県・事業者・県民の間で、再生品の使用を広げています。

再生品使用促進指針の策定(品目数)



ごみ減量・リサイクル促進の流れ

●主要施策

- 循環型社会の構築
- 一般廃棄物対策
- 産業廃棄物対策
 - 排出事業者・処理業者の監視・指導等
 - 排出事業者による発生量の抑制・再生利用等
 - 処理業者の育成・指導(適正処理の意識高揚と技術向上等)
 - 廃棄物処理施設の整備
 - 広域的な移動への対応

●重点プロジェクト

ごみゼロ社会プロジェクト

- 廃棄物の減量化の推進
容器包装廃棄物・資源ごみの分別回収を徹底。事業者による産廃排出の抑制・リサイクルの推進。
- 廃棄物の有効利用
「ごみゼロガイドライン」の策定。
- 再生品の使用の促進
「岡山県再生品の使用促進に関する指針」の策定。再生品の使用促進や廃棄物の排出抑制・循環的利用に先進的に取り組む事業所を認定し、その取組状況を広くPR。「岡山県エコ製品」の認定。
- エコタウンプランの推進
平成15年度末に策定、国の承認を得た岡山エコタウンプランの事業を推進。
- 公共事業における建設副産物の有効利用等

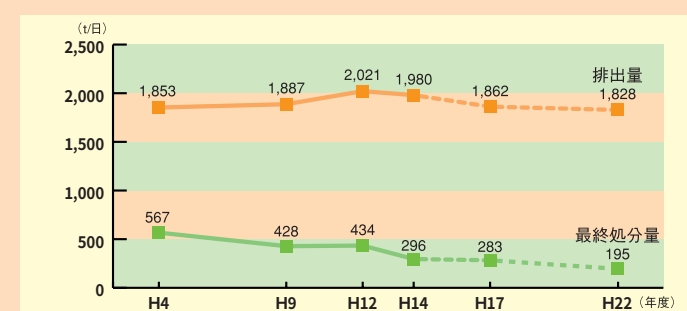
廃棄物・リサイクルの現状と課題

県民の皆さんの意識向上や、分別・リサイクルの実践活動が浸透していった結果、ごみの最終処分量は減少傾向に転じています。平成22年度までの各種目標を確実に達成するためには、今後も県民・事業者・行政が一体となり、資源の循環的な活用をますます促進していかなければなりません。

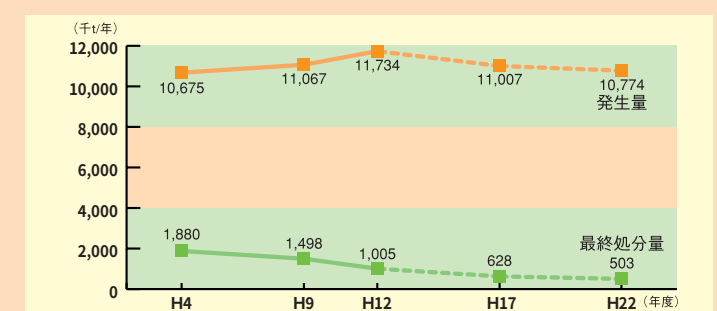
●ごみ減量化の達成状況

計画目標		排出量等の目標値	達成状況	今後の対策
一般廃棄物	排出量の削減	1,862t/日(17年度) 1,828t/日(22年度)	1,980t/日(14年度実績値・対前年57t増)	○岡山県廃棄物処理計画等に基づき、ごみの排出抑制と再利用・再生利用をさらに促進
	最終処分量の削減	283t/日(17年度) 195t/日(22年度)	296t/日(14年度実績値・対前年25t減)	
産業廃棄物	発生量の削減	10,774千t/年(22年度)	11,734千t/年(12年度実績値)	○14年度の汚泥、15年度の鉱さいに続き、循環資源の「ごみゼロガイドライン」を順次策定 ○「循環資源情報提供システム」の構築 ○地域ミニエコタウン事業の支援
	最終処分量の削減	503千t/年(22年度)	881千t/年(14年度推計値・12年度より124千t減)	

各種対策が成果を上げ、最終処分量はしだいに減少傾向に。さらなる削減対策が、現在も進行中。



●県内での一般廃棄物の排出量と最終処分量
14年度の実績は12年度に比べ、排出量で約40t、最終処分量で約140t減量。今後も目標達成にむけ、対策を継続します。



●県内での産業廃棄物の発生量と最終処分量
リサイクルの促進や、処理技術の普及等により、最終処分量は確実に減少中。排出事業者・処理業者の啓発等、排出抑制の取組も進んでいます。

中国山地・吉備高原・瀬戸内海と、多様な自然を持つ岡山県。しかし都市化や開発が進む中で、自然環境の保全や野生動植物の保護が、緊急の課題となっています。

また一方で、環境に対する県民意識の向上とともに、

自然とのふれあいを求めるニーズも増大。県では、「自然との共生」を重点プロジェクトに、自然保護やふれあいの場の創造にむけた各種の取組を実行しています。

自然との共生
プロジェクト

「こんな水辺で遊びたい・憩いたい」を、
現実の光景にしています。

地域の人たちが水辺の自然とふれあい、親しめる場を増やしていくために、「出会いとふれあいの水辺づくりモデル事業」を展開。住民のニーズに基づく河川環境の整備を進めています。

水辺づくりモデル事業の実施河川数



県民参加



ふるさと岡山を
自然と動植物の
楽園にしよう。

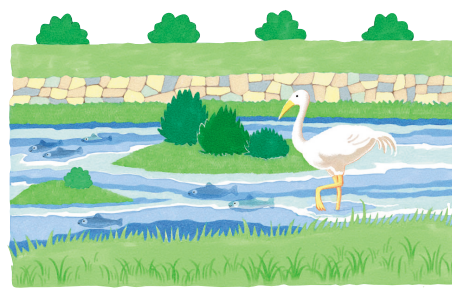
自然環境の現状と課題

生物多様性を確保し、野生動植物との共生を図っていくためにも、残されている自然を大切に守っていくことが重要課題。また環境保護に関する啓発活動や、身近に自然とふれあえる場を増やす取組も、積極的な推進が必要です。県としても、自然公園等の指定地拡大による保護や、都市公園の整備、希少野生動植物保護条例の推進など、各種事業を広く展開しています。

●自然保護対策の計画と達成状況

計画目標（目標値）	15年度達成状況	今後の対策
自然公園等の面積拡大 （国平均14%と同程度へ）	県土の11% 鈴島、坊子島、住吉島が瀬戸内海国立公園に追加指定	○自然公園等への指定が必要な地域を引き続き調査検討
生物多様性の確保・野生生物との共生	岡山県希少野生動植物保護条例を制定 希少野生動植物保護基本方針を策定	○県民との協働による希少野生動植物の保護及び自然環境保全活動の推進
自然とのふれあいの場の確保	自然公園内の利用施設を整備	○効率的な施設整備を継続的に推進
森林の減少防止・緑の質的向上	県内の森林面積484,556ha（県土の68.1%）	○森林の保全・確保に努め、適切な施策を計画的に実施
都市公園の拡充（県民1人あたり10.2㎡から20㎡へ）	11.9㎡に拡大	○都市公園の整備を継続的に推進

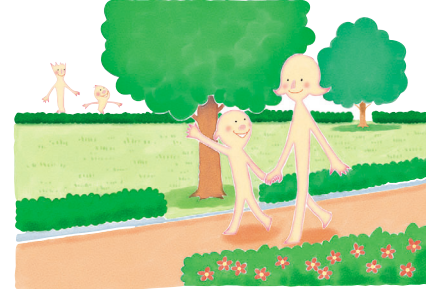
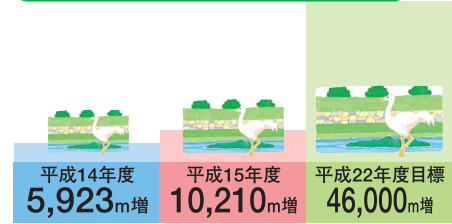
希少野生動植物保護条例を制定し、協働により保護を推進。



生き物たちをよびもどす、
自然に近い川をつくっていきます。

自然との共生に配慮した河川を増やしていくために、多自然型護岸の整備を促進します。

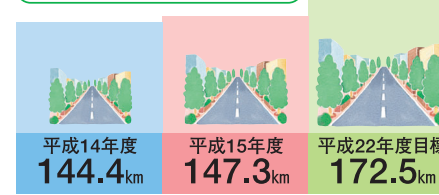
多自然型護岸の延長（平成13年度比較）



街に、緑や花のあふれる
道路を増やしています。

ゆとりとうるおいのある道路空間を創出するため、道路の緑化を継続的に実施。緑や花が楽しめる道路を増やしています。

緑化された道路の延長



里山を守る「育ての親」が増加中。

所有者による手入れが困難な里山を、地域住民が「育ての親」として管理・利用する協定制度を創設。里山を守り、自然学習の場として利用する動きが広がっています。

里山利用協定の締結箇所数



県民参加

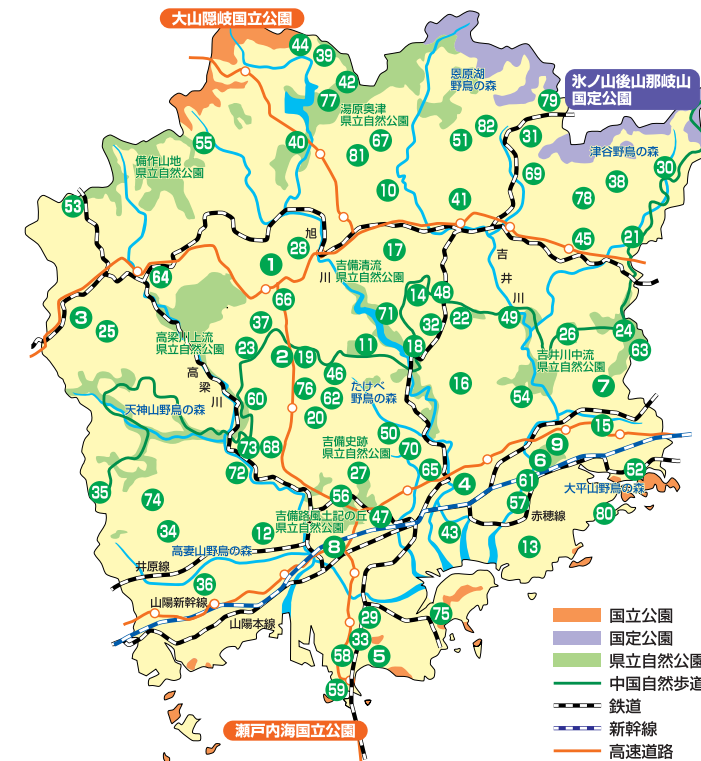
貴重な自然へ、さらに手あつい保護を。

自然公園や郷土自然保護地域などの指定地域を拡大すると同時に、指定希少野生動植物を指定し、貴重な動植物・自然林・湿地・水辺などの保護対策も強化していきます。

自然保護条例による指定地区数



県民参加



- 県自然環境保全地域
- 塩滝
 - 大平山・権現山
 - 鯉が窪
- 環境緑地保護地域
- 竜の口
 - 田の口
- 郷土自然保護地域
- 大滝山
 - 和意谷
 - 浅原
 - 熊山・奥吉原
 - 檜山
 - 化気
 - 前田
 - 安仁神社
 - 岡山寺
 - 松尾山
 - 布都美
 - 幻住寺
 - 三樹山
 - 天福寺
 - 具足山
 - 恵龍山
 - 波多
 - 祇園山
 - 八塔寺
 - 荒戸山
 - 真木山

- 大井宮山
- 木山
- 新熊野・蟻峰山
- 大原神社
- 矢筈山
- 仏教寺
- 神田八幡宮
- 千手院
- 高原
- 甲賀神社
- 高岡神社
- 梶並神社
- 東温原
- 天狗の森
- 中山神社の社叢
- 津黒
- 郷土記念物
- 曹源寺の松並木
- 臥の松並木
- 笠懸の森
- 加茂総社宮の社叢
- 吉備津の松並木
- 西幸神社の社叢
- 宗形神社の社叢
- 九谷の樹林
- 岩屋の森
- 高良八幡の森
- 野原の松並木
- かしろの森



瀬戸内海国立公園指定70周年記念のついで
（平成16年5月 倉敷市下津井吹上で開催）

自然環境を守る対策の流れ

- 主要施策
- 優れた自然・生態系や身近な自然の保護
 - 自然と調和した開発指導
 - 良好な景観の保全と創造
 - 生物の多様性の確保と、野生動植物との共生
 - 自然とのふれあいの場の確保
 - みどりの保全・復元と創造

●重点プロジェクト
自然との共生プロジェクト

- <自然環境保全>
- 自然公園・郷土自然保護地域等の指定拡大と保全の推進
 - 「岡山県版レッドデータブック（※1）」による普及啓発
 - 「岡山県希少野生動植物保護条例」の制定
 - ビオトープ（※2）の整備
 - 自然とのふれあいの場の確保
- <緑の環境づくり>
- 参加交流型の緑化の推進
 - 森林の整備
 - ふるさとの緑の保全
 - 農地等の保全
 - 公園、緑地の整備
 - 道路、河川、公共施設等の緑化
- （※1）レッドデータブック：絶滅のおそれがある野生動植物のデータ集
（※2）ビオトープ：生物が安定的に生息できる空間

オゾンホールや酸性雨、熱帯雨林の減少など、さまざまな課題を抱えている地球環境。

中でも温室効果ガスによる地球温暖化の進行は、最も重大な問題となっています。

岡山県では、「地球温暖化防止」を重点プロジェクトに設定。

地球を守る県民レベルの省エネ運動を推進し、

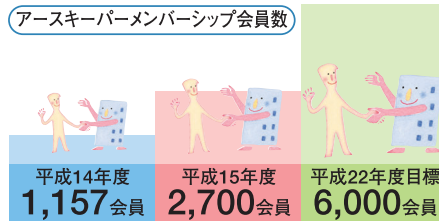
また自然環境と調和したクリーンエネルギーの活用に取り組んでいます。



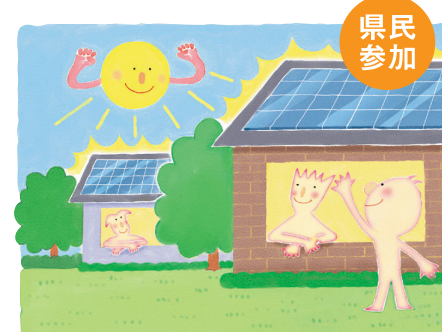
アースキーパーメンバーシップ会員に
多くの県民や事業所が参加しています。

地球温暖化を防ぐため、自主的に取り組む個人や事業所を「アースキーパーメンバーシップ会員」として登録。平成15年度末現在で2,700の県民・事業所が加入し、身近でできる省エネなど、環境への負荷を減らす取組を実践しています。

アースキーパーメンバーシップ会員数



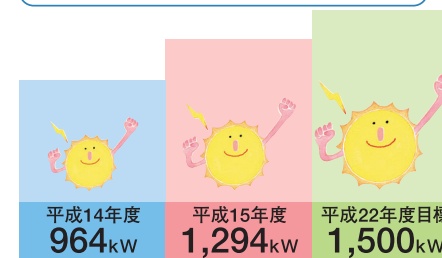
岡山を、温暖化防止と
クリーンエネルギー活用
の
二大フロンティアにしよう。



「晴れの国」の陽光が、
続々と電気をつくっています。

化石燃料を使わないクリーンエネルギーとして、太陽光発電の普及を推進。県の施設へ率先的に導入し、また民間への導入も支援しています。

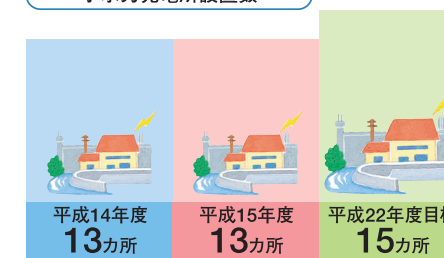
太陽光発電による総出力電力(公共及び民間施設)



環境にやさしい、
未来のエネルギー開発も進行中です。

環境を汚さないエネルギー源として、小水力発電等を積極的に推進。またコージェネレーションやバイオマス等、新エネルギーの調査研究も進めています。

小水力発電所設置数



地球温暖化を
防ぐ取組



●地球温暖化防止活動推進センター
温暖化防止のための啓発・広報や情報提供、活動実践の拠点として機能しています。
※アースキーパーメンバーシップ会員の申し込みも受け付けています。(問合せ先は裏表紙参照)



●地球温暖化防止活動推進員
防止活動を地域で実践するうえでの指導・助言者として、推進員が活躍中です。



県民
参加

県民、事業者、行政が参加して岡山県地球温暖化防止シンポジウムが開催されました。

地球を守るために、
県民も取り組んでいます。

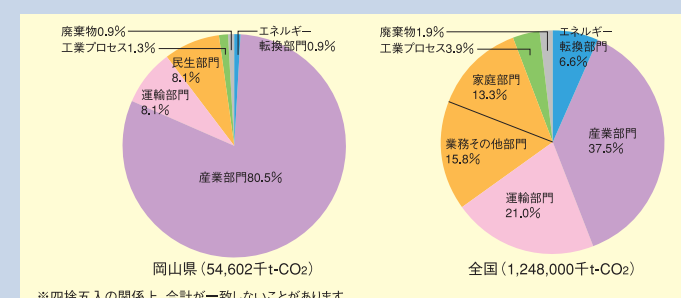
地球温暖化の防止にむけて、その対策活動の拠点となる「地球温暖化防止活動推進センター」を設けるとともに、協働による取組も着々と進行しています。

地球環境の現状と課題

二酸化炭素の県内での排出量は、2002年度では54,602千tと推計され、その量はスウェーデンの排出量に匹敵しています。岡山から発生する二酸化炭素やその他の温室効果ガスを減らしていくために、クリーンなエネルギーの活用や、県民をあげての省エネ活動をさらに急ピッチで進めていきます。

●温室効果ガス削減目標と各種取組の状況

計画目標	削減目標値	15年度達成状況	今後の対策
温室効果ガス排出量の削減	6.5%削減 (平成2年度比)	基準年度比2.5%の増加(平成14年度分算定実績)	○県民・事業者・行政の協働により、岡山県地球温暖化防止行動計画を一層着実に推進する。



●岡山県と全国の部門別二酸化炭素排出量(2002年度)
岡山県で排出している二酸化炭素は、その多くを産業部門が発生。排出を抑制していくために、企業のアースキーパーメンバーシップ参加や、太陽光発電の導入を推進していきます。

温室効果ガスの削減目標達成にむけ取り組んでいます。

区 分	基準年度 平成2年度 (1990年度)	排出量(千t-CO ₂)		
		平成14年度 (2002年度)	平成2年度比 増減率(%)	構成割合 (%)
二酸化炭素	53,048	54,602	2.9	98.2
メタン	351	281	-19.9	0.5
一酸化二窒素	418	468	12.0	0.8
代替フロン等 (HFC、PFC、SF ₆)	417	260	-37.6	0.5
計	54,234	55,611	2.5	100.0

●平成14年度(2002年度)岡山県内の温室効果ガス排出量
※二酸化炭素以外は、二酸化炭素換算量で示しています。
1990年度の代替フロン等は1995年度実績です。

県の環境施策について、提言をお寄せください。

岡山県では、「岡山県環境基本条例」に基づき、みなさんから広く環境を守り育てるための提言を募集しています。ふるさと岡山をよりよくしていくためのアイデアをお寄せください。

◎資格:岡山県内に住んでいる人、または県内に通勤・通学している人など。

◎内容:身近な環境から豊かな自然まで、広く環境についての提言。

(ただし、裁判所で係争中の事項等をのぞく)

◎手続き:書面に必要な事項と提言の趣旨・理由を記入の上、岡山県環境保全委員会までご提出ください。郵送やファックスでもかまいません。

寄せられた提言の流れ

提言する人:提言書を提出し、必要に応じて資料の提出や説明を行います。

岡山県環境保全委員会:提言について調査・審議を行い、必要があると認めたときは知事などに意見書を提出します。また、提言及び調査審議の状況を公表します。

知事など県の機関:岡山県環境保全委員会の意見を尊重し、必要な措置を講じるよう努めます。

※お問い合わせは 岡山県環境政策課(下記)へ

おかやま環境レポート 2004

岡山県 生活環境部 環境政策課

〒700-8570 岡山市内山下2-4-6

TEL086-226-7298 FAX086-231-8094

e-mail kansei@pref.okayama.lg.jp

岡山県ホームページ<http://www.pref.okayama.jp/>

<お問い合わせ先>

環境パートナーシップ構築プロジェクト

環境政策課 TEL086-226-7297 e-mail kansei@pref.okayama.lg.jp

環境教育・環境学習推進プロジェクト

環境政策課 TEL086-226-7297 e-mail kansei@pref.okayama.lg.jp

岡山県環境保健センター TEL086-298-2681 e-mail kanpo@pref.okayama.lg.jp

岡山県自然保護センター TEL0869-88-1190 e-mail fvbs5490@mb.infoweb.ne.jp

自動車公害対策プロジェクト

環境管理課 TEL086-226-7302 e-mail kankanri@pref.okayama.lg.jp

有害化学物質削減プロジェクト

環境管理課 TEL086-226-7305 e-mail kankanri@pref.okayama.lg.jp

水環境保全プロジェクト

環境管理課 TEL086-226-7304 e-mail kankanri@pref.okayama.lg.jp

快適生活空間創造プロジェクト

環境政策課 TEL086-226-7298 e-mail kansei@pref.okayama.lg.jp

ごみゼロ社会プロジェクト

廃棄物対策課 TEL086-226-7307 e-mail haikibutu@pref.okayama.lg.jp

自然との共生プロジェクト

自然環境課 TEL086-226-7309 e-mail sizen@pref.okayama.lg.jp

地球温暖化防止プロジェクト

環境政策課 TEL086-226-7297 e-mail kansei@pref.okayama.lg.jp

※アースキーパーメンバーシップについては

岡山県地球温暖化防止活動推進センター TEL086-298-1225 e-mail stopco2@kankyo.or.jp